

## 校正証明書

依頼者名 ○○○○○  
依頼者住所 ○○○○○○○○○○○  
品名 ガラス製温度計  
型式 目盛範囲 ○○○  
目量 ○○○  
器物番号 ○○○○○  
校正項目 温度  
校正方法 「安藤計器—温度計校正実施手順書」による  
校正年月日 ○○○○年○○月○○日  
校正実施場所 当社温度校正室

国家標準にトレースされた標準器で校正を行い、校正結果が次頁の通りであることを証明します。

有効期間 : (下記参照) ※

発行日 : ○○○○年○○月○○日

東京都板橋区仲町31-1  
株式会社 安藤計器製工所  
計量校正研究所  
所長 ○ ○ ○ ○

本書は計量法第122条第1項の計量士により品質管理されております。(経産省登録:第13472号)  
※(独)製品評価技術基盤機構では、ガラス製温度計(校正機器)の校正周期を「1年」としています。  
平成12年3月までの基準器の有効期間、また経年変化が落ち着く目安期間(計量法132条)は「3年」です。上記より弊社では「1年」「2年」又は「3年」と考えます。  
ただし、「校正証明書は校正周期に関する推奨を含んではならない。(JIS Q 17025)」より、上記等を参考に適正な校正周期はユーザー様に判断・決定していただいております。

1. 校正結果

表す温度(°C)	器 差(°C)	補正值(°C)	補正後の温度(°C)
○○○	○○○	○○○	○○○
○○○	○○○	○○○	○○○
○○○	○○○	○○○	○○○

※補正後の温度は、表す温度から器差を減じた値、または、補正値を加えた値です。  
補正後の温度 = 表す温度 - (器差)  
補正後の温度 = 表す温度 + (補正值)

2. 校正の拡張不確かさ

○○○○○○○○○○○○○○○○○○(○○ °C)  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○(○○ °C)

上記の拡張不確かさは、信頼の水準約95%に相当し、包含係数  $k$  は2です。

3. 校正条件

- ・ 温度計は検査する温度目盛まで鉛直に検査槽の液中に浸して読取った。
- ・ 校正時の環境条件  
温度: ○○○  
湿度: ○○○
- ・ 校正に使用した温槽  
○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○

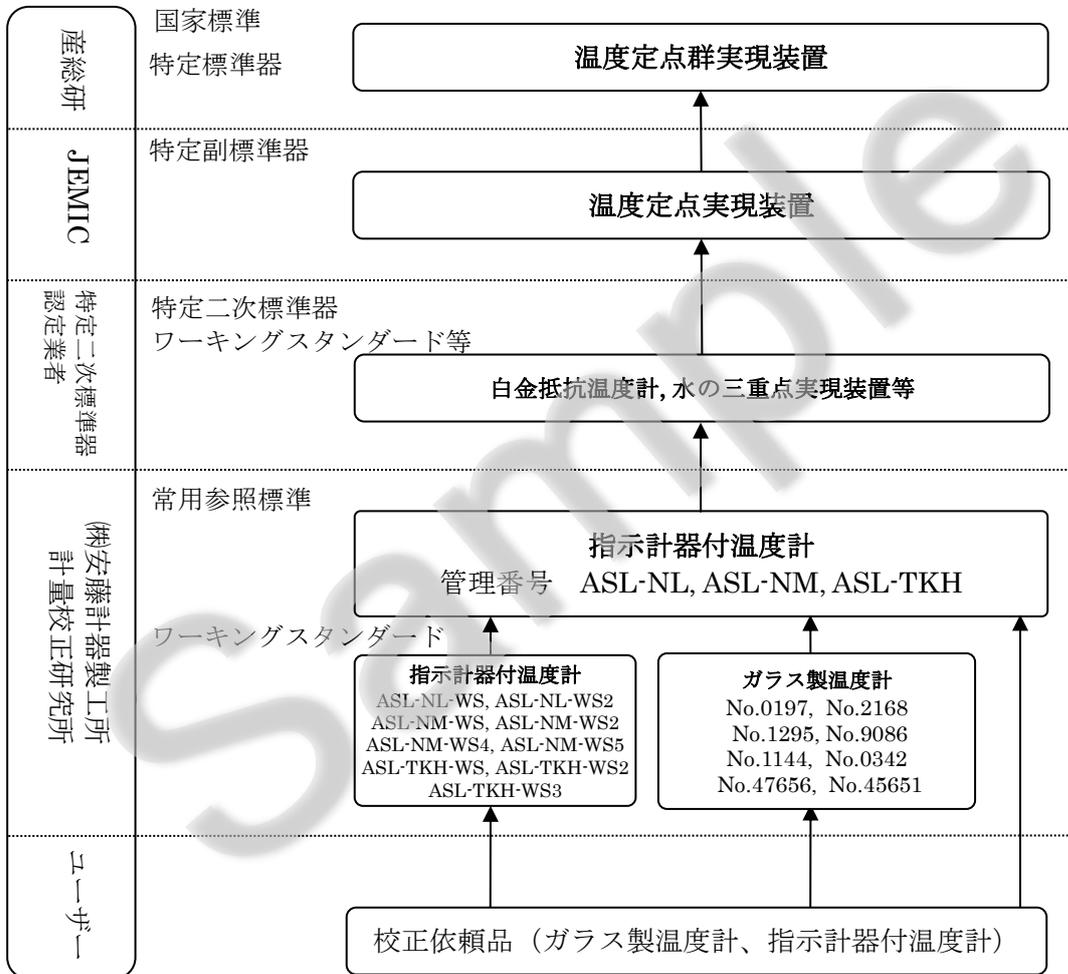
4. 使用した機器は以下のとおりです。

○○○○○○○○○○○○○○○○

以上

## 《温度標準トレーサビリティ体系図》

当社の標準器は、下記体系図に示すように国家標準にトレーサブルであることを証す。



※産総研：国立研究開発法人 産業技術総合研究所

JEMIC：日本電気計器検定所

### 温度標準器の有効期限

標準の種類	器物番号または管理番号	有効期限
指示計器付温度計	ASL-NL	〇〇〇〇年〇〇月〇〇日
指示計器付温度計	ASL-NL-WS	〇〇〇〇年〇〇月〇〇日
	ASL-NM-WS2	
	ASL-TKH-WS	
ガラス製温度計	0197, 2168, 1295, 9086,	〇〇〇〇年〇〇月〇〇日
	1144, 0342, 47656, 45651	

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日  
株式会社 安藤計器製工所  
計量校正研究所